



# 緑内障は早期発見・早期治療

緑内障は、視神経が障害され視野が狭くなる病気で、放置すると失明する危険があります。40歳以上の20人に1人が発症し、中途失明原因の常に上位にある疾患です。ある報告によると、緑内障患者のうち、眼科で治療を受けている方は約1割で、9割の方は緑内障に気付かず放置されたままだと言われています。これは、緑内障の初期では、自覚症状がほとんどないからです。

**緑内障は、どんなに治療がうまくいっても、狭くなった視野が元に戻ることはありません。治療の目的は進行を抑えることにありますから、早期発見と早期治療が最も重要です。**

**必要な検査▶眼圧検査や眼底検査。緑内障が疑われたら、次に視野検査。**



## 眼圧検査

眼球の内圧を測定する検査です。眼圧が高いと緑内障を疑います。



## 眼底検査

眼底検査は、緑内障の診断に係わらず眼科の日常診療で幅広く行われている検査です。緑内障になると特徴的な眼底所見を示すようになります。人間ドックや健康診断を受けられた方の中には、眼底検査の項目に「視神経乳頭陥凹拡大」や「視神経線維層欠損」と書かれたことのある方もいるかと思いますが、それは緑内障の可能性を疑う所見です。



## 視野検査

緑内障に特徴的な異常が認められたら、緑内障と診断できます。(もちろん、視野検査で異常があれば全て緑内障というのではなく、総合的に判断する必要があります。)

しかし、眼圧検査や眼底検査で緑内障と強く疑いながらも、視野検査で異常が出ない場合があります。この場合、緑内障を否定することはできません。視神経に障害が生じてから、視野検査で異常が確認されるのに1年以上かかるといわれているため、緑内障の極早期では視野検査でも診断ができません。



眼科部長  
**尾羽澤 実**

財団法人日本眼科学会認定眼科専門医  
東海大学1994年卒業、医学博士

## 定期的な検査を！

眼圧検査や眼底検査で緑内障を疑われた方は、たとえ視野検査の結果が正常であっても、2~3年に一回は視野検査を受けることをお勧めします。

近年ではOCT(光干渉断層計)という検査機器が普及するようになり、視野検査よりも早期に緑内障を診断することが可能となりました。この検査は「痛み」や「まぶしさ」を感じることなく、短時間で行うことができます。

当院でもOCTを導入し、積極的に緑内障の診断を行っております。

40歳を過ぎたら、眼科での定期的な検査をお勧めします。  
眼のことでお困りの方は、どうぞ当院眼科へご相談ください。

### ご予約方法

電話予約 **04-7123-5901**

月曜日~土曜日 9:00~16:00 ただし、祝日および病院指定休診日を除く

  
**kikkoman**

キッコマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100  
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920  
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>